

平成28年度 幸区区民アンケート調査 概要版

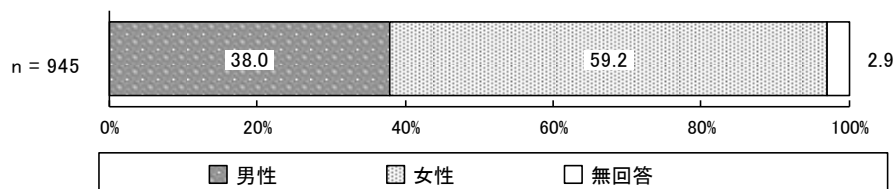
調査の概要

- 【調査対象】 幸区在住の満18歳以上の男女個人（外国人を含む）
- 【標本抽出】 平成28年3月31日現在の住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出
- 【調査方法】 郵送配布一郵送回収法
- 【調査期間】 平成28年8月23日～9月5日
- 【回収状況】 調査件数：2,000件
有効回収数：945件
有効回収率：47.3%
- 【調査項目】
- | | |
|------------------------|---------------------|
| (1) 幸区への愛着や住みやすさなどについて | (8) 児童虐待について |
| (2) 区の魅力(地域資源)について | (9) 障害者支援について |
| (3) 自転車事故防止対策について | (10) 高齢者支援について |
| (4) 防災について | (11) 地域包括ケアシステムについて |
| (5) 区民サービスについて | (12) 健康づくりについて |
| (6) 地域コミュニティについて | (13) 行政の情報について |
| (7) 子育て支援について | |

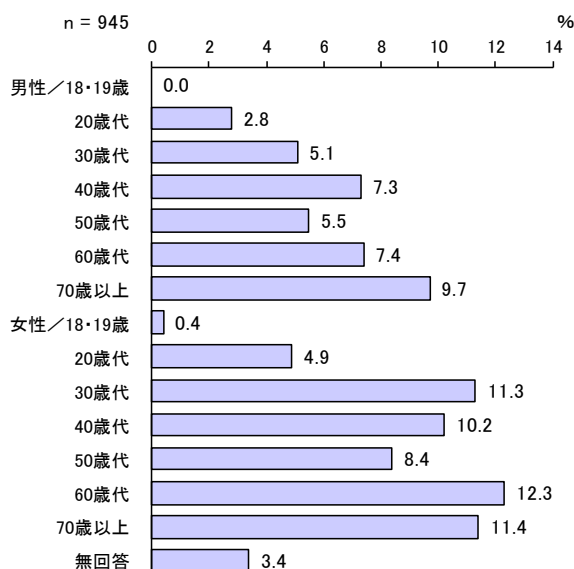
※ 図中における基数となるべき実数（n）は回答者数を示している。また、本文中の「構成比（%）」は小数点以下第2位を四捨五入していること、並びに複数回答によるものも含まれていることから、構成比の合計が100%に満たない、あるいは上回る場合がある。

○調査回答者の属性

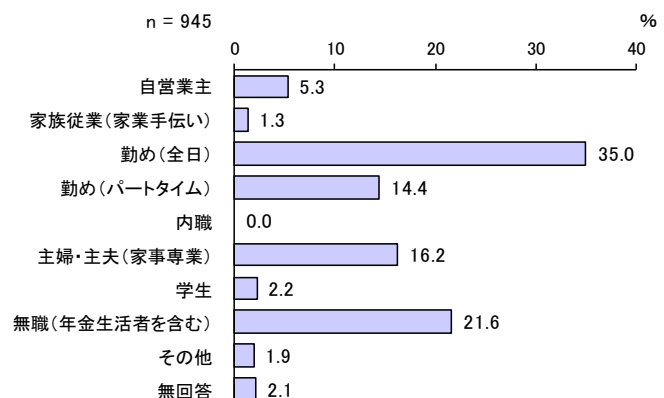
【F1】性別



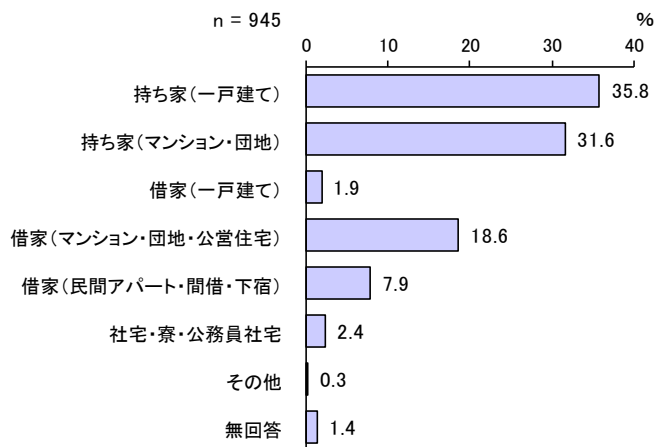
【F2】年齢



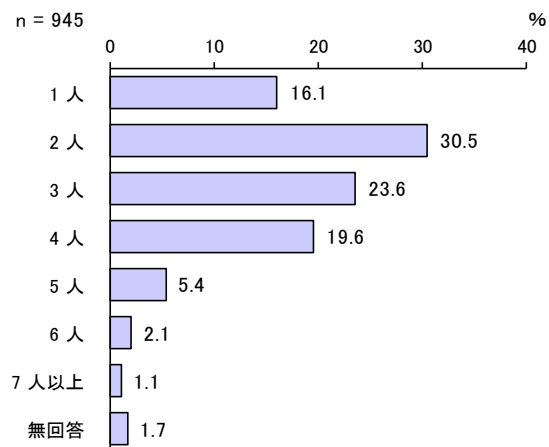
【F3】職業



【F4】居住形態

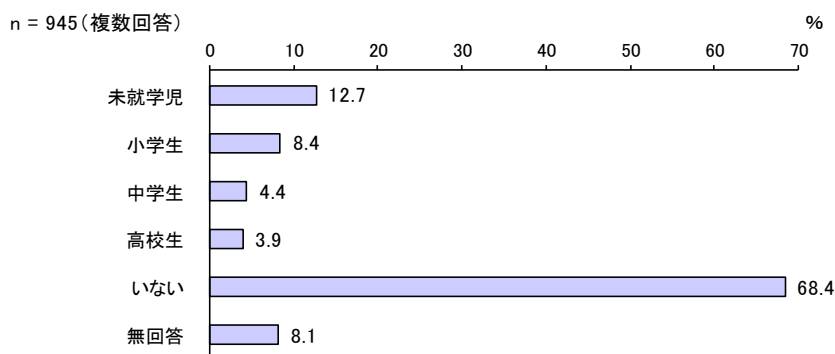


【F5】同居家族

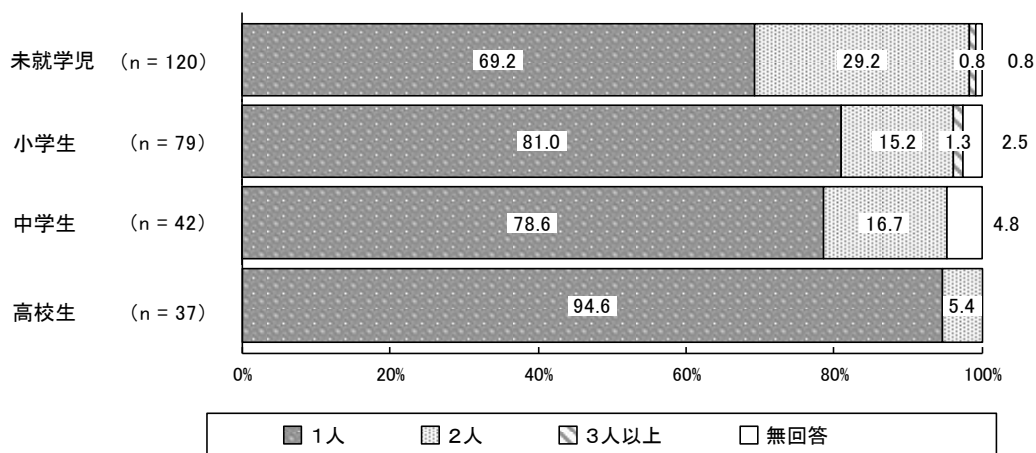


【F6】同居の未就学児、小学生、中学生、高校生の有無と人数

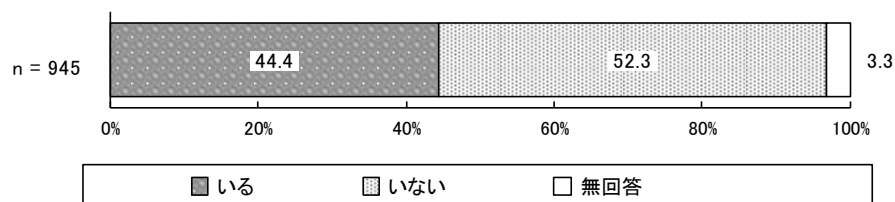
①未就学児、小学生、中学生、高校生の有無



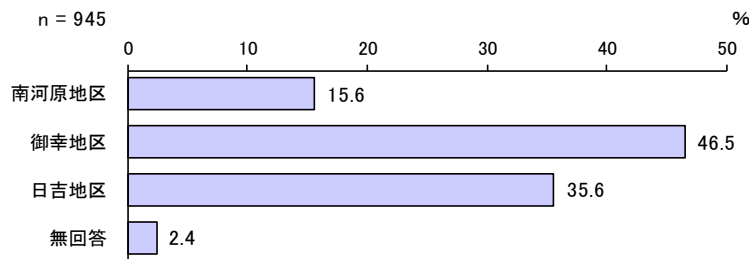
②未就学児、小学生、中学生、高校生の人数



【F7】高齢者（65歳以上）の同居状況



【F8】居住地区



※各地区の内訳

【幸区役所管内】

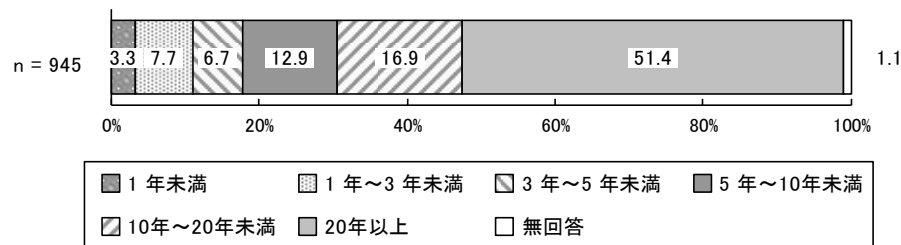
南河原地区：大宮町、幸町、中幸町、堀川町、南幸町、都町、柳町

御幸地区：遠藤町、河原町、小向町、小向仲野町、小向西町、紺屋町、下平間、新塚越、神明町、塚越、戸手、戸手本町、東古市場、古市場、古川町

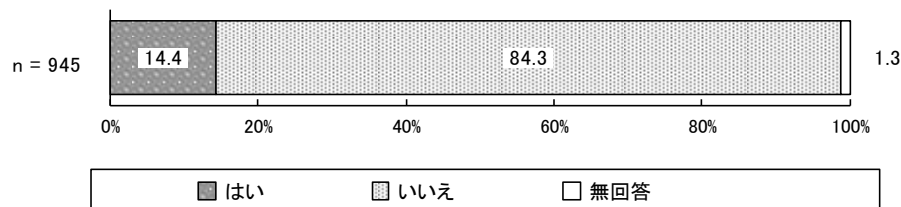
【日吉出張所管内】

日吉地区：小倉、鹿島田、北加瀬、新小倉、新川崎、東小倉、南加瀬、矢上

【F9】居住年数



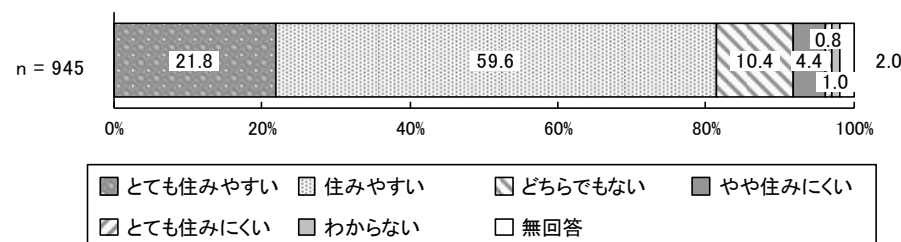
【F10】ペットの有無



1 幸区への愛着や住みやすさなどについて

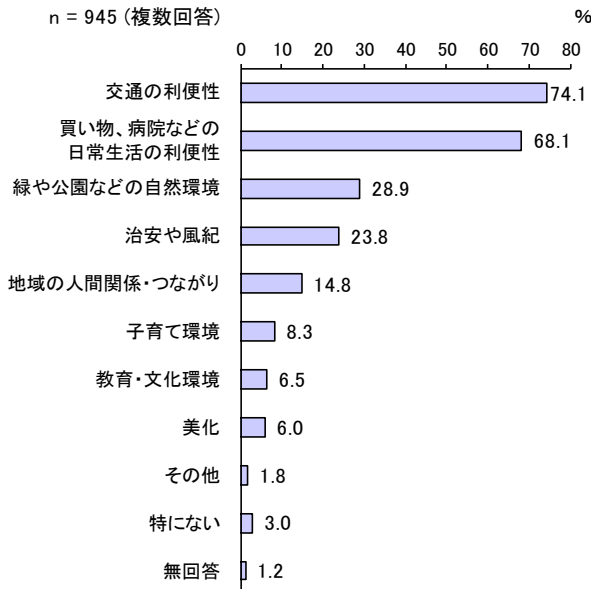
(1) 幸区の住みやすさ

「とても住みやすい」(21.8%)と「住みやすい」(59.6%)を合わせると、81.4%が住みやすいと感じている。



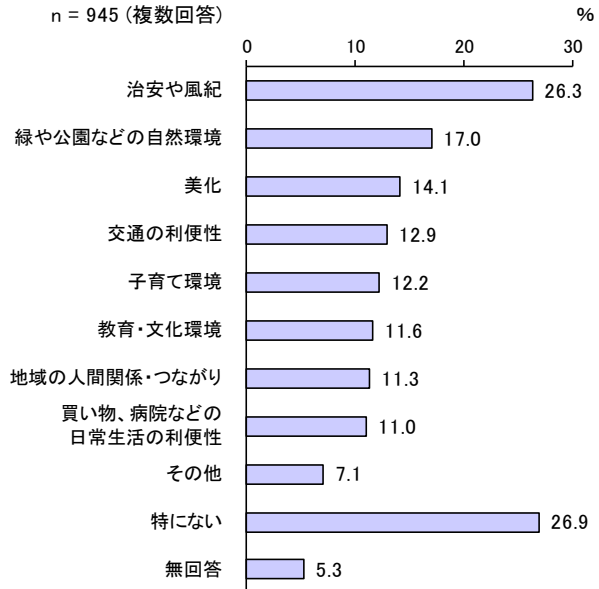
(2) 幸区の良いと感じるところ

「交通の利便性」が74.1%で最も高く、次いで「買い物、病院などの日常生活の利便性」(68.1%)、「緑や公園などの自然環境」(28.9%)と続いている。



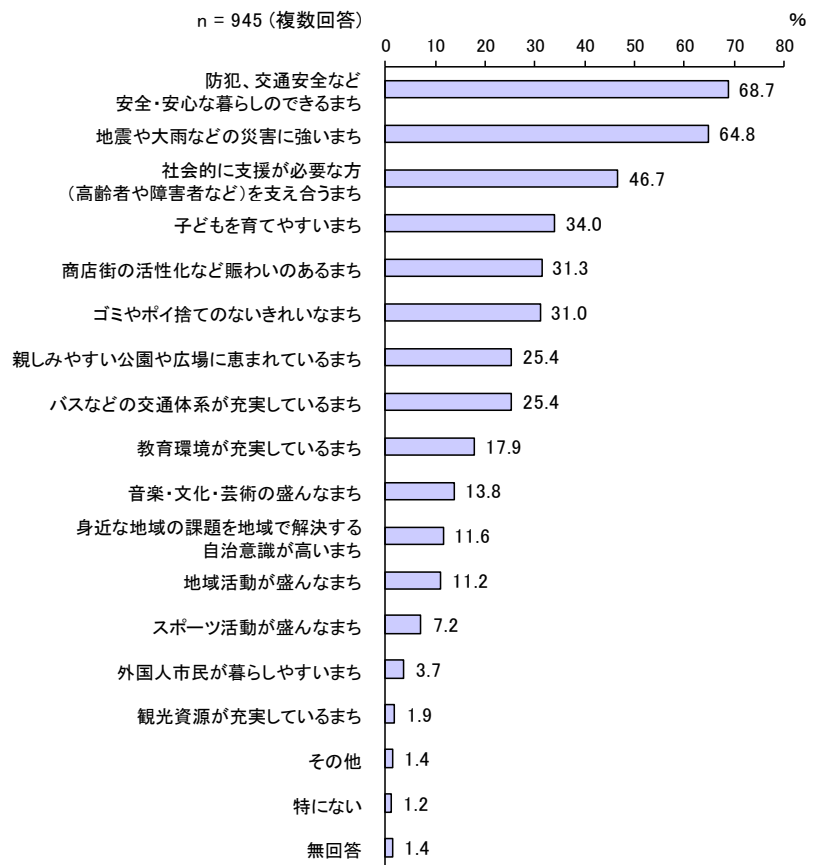
(3) 幸区の不満に感じる場所

「治安や風紀」が26.3%で最も高く、次いで「緑や公園などの自然環境」(17.0%)、「美化」(14.1%)と続いている。一方、「特にない」は26.9%となっている。



(4) 10年後の幸区について、どのようなまちをめざすべきか

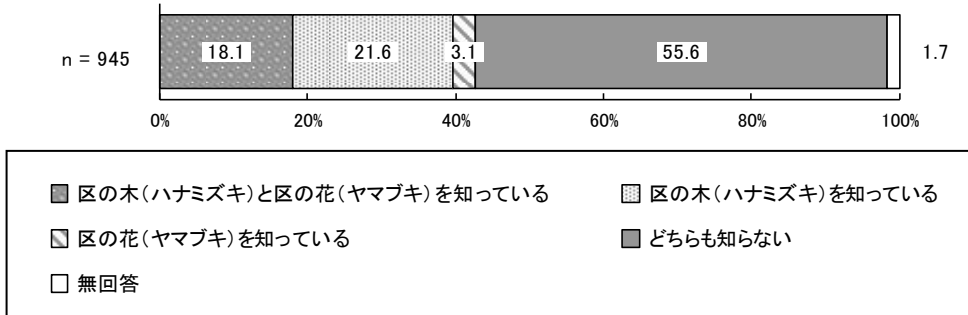
「防犯、交通安全など安全・安心な暮らしのできるまち」が68.7%で最も高く、次いで「地震や大雨などの災害に強いまち」(64.8%)、「社会的に支援が必要な方(高齢者や障害者など)を支え合うまち」(46.7%)と続いている。



2 区の魅力(地域資源)について

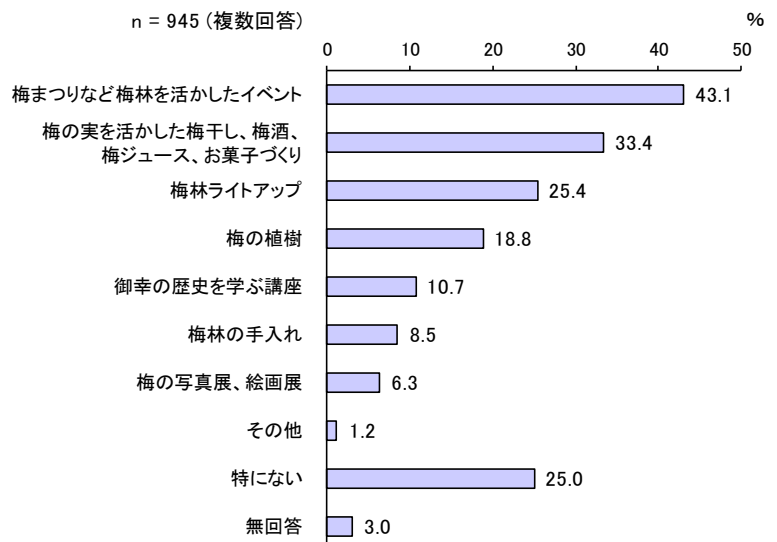
(1) 幸区の「区の木」「区の花」について

「区の木(ハナミズキ)と区の花(ヤマブキ)を知っている」(18.1%)が2割近く、「区の木(ハナミズキ)を知っている」(21.6%)が2割を超え、「区の花(ヤマブキ)を知っている」(3.1%)はわずかとなっている。一方、「どちらも知らない」(55.6%)は6割近くとなっている。



(2) 御幸公園梅香(うめかおる)事業の取組で参加してみたいこと

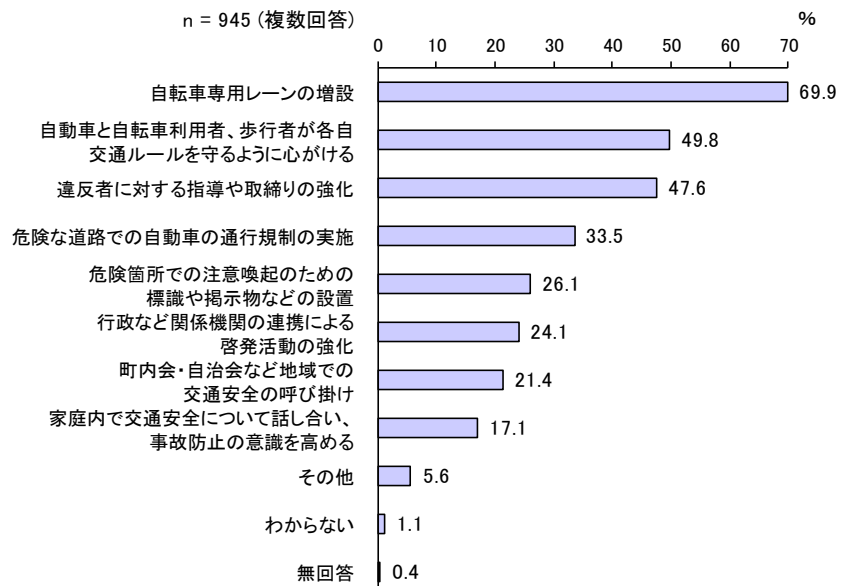
「梅まつりなど梅林を活かしたイベント」が43.1%で最も高く、次いで「梅の実を活かした梅干し、梅酒、梅ジュース、お菓子づくり」(33.4%)、「梅林ライトアップ」(25.4%)と続いている。



3 自転車事故防止対策について

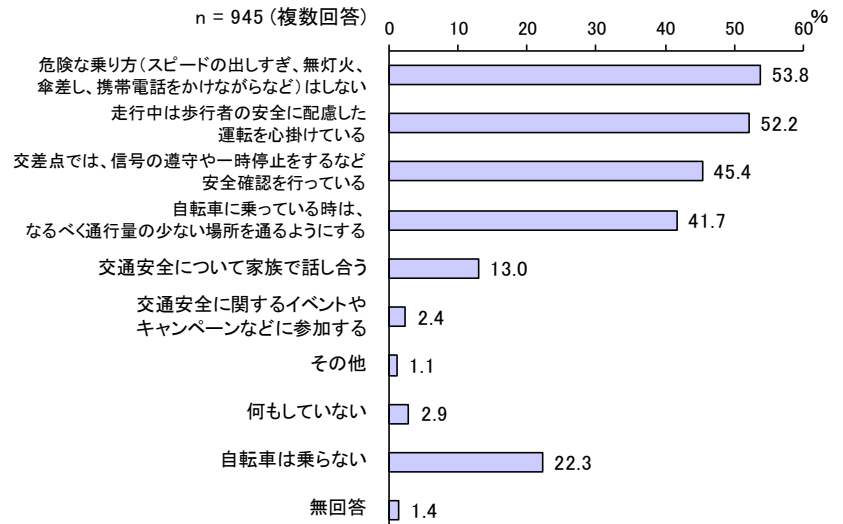
(1) 自転車事故をなくすために有効だと思う対策

「自転車専用レーンの増設」が69.9%で最も高く、次いで「自動車と自転車利用者、歩行者が各自交通ルールを守るように心がける」(49.8%)、「違反者に対する指導や取締りの強化」(47.6%)と続いている。



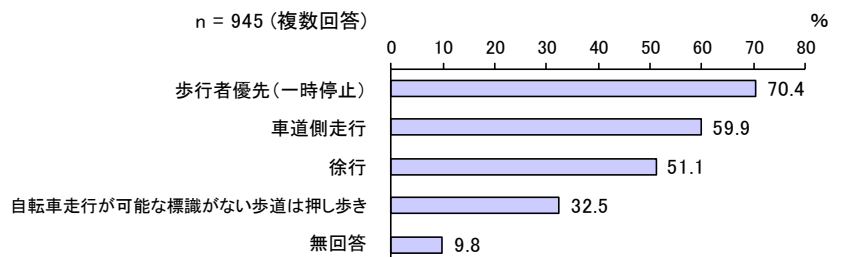
(2) 自転車事故防止のためにやっていること

「危険な乗り方（スピードの出しすぎ、無灯火、傘差し、携帯電話をかけながらなど）はしない」が53.8%で最も高く、次いで「走行中は歩行者の安全に配慮した運転を心掛けている」(52.2%)、「交差点では、信号の遵守や一時停止をするなど安全確認を行っている」(45.4%)と続いている。



(3) 自転車走行が可能な歩道で認識している自転車利用のルール

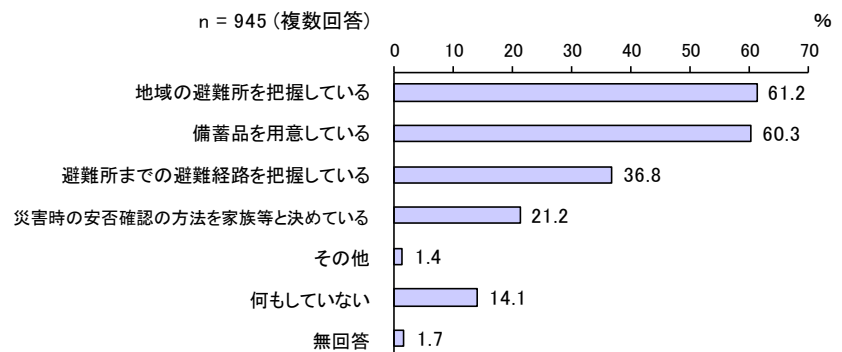
「歩行者優先（一時停止）」が70.4%で最も高く、次いで「車道側走行」(59.9%)、「徐行」(51.1%)と続いている。



4 防災について

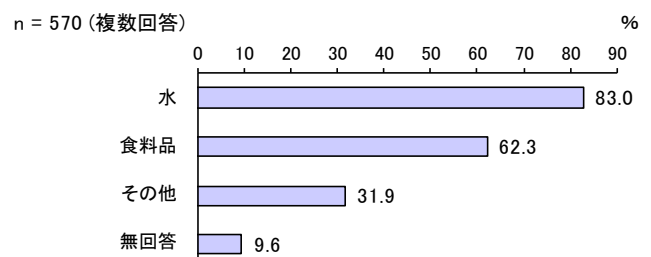
(1) 災害に備えて行っていること

「地域の避難所を把握している」が61.2%で最も高く、次いで「備蓄品を用意している」(60.3%)、「避難所までの避難経路を把握している」(36.8%)と続いている。



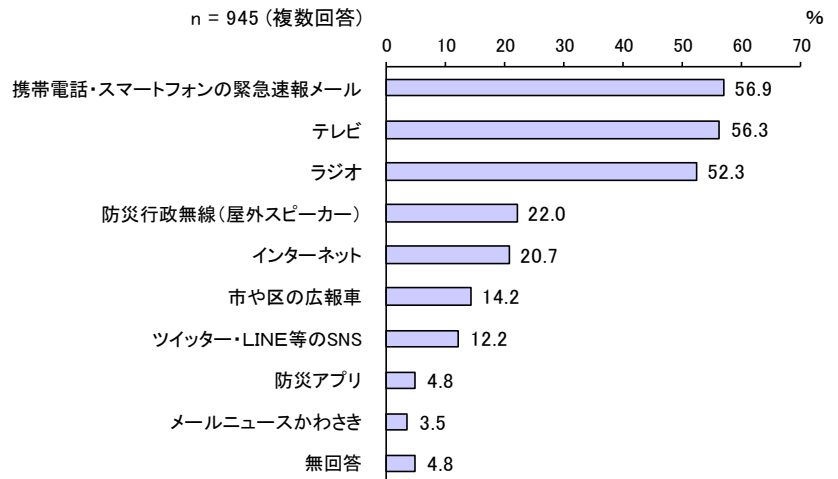
備蓄しているもの

「備蓄品を用意している」人に備蓄しているものをきいたところ、「水」が83.0%で最も高く、次いで「食料品」(62.3%)と続いている。



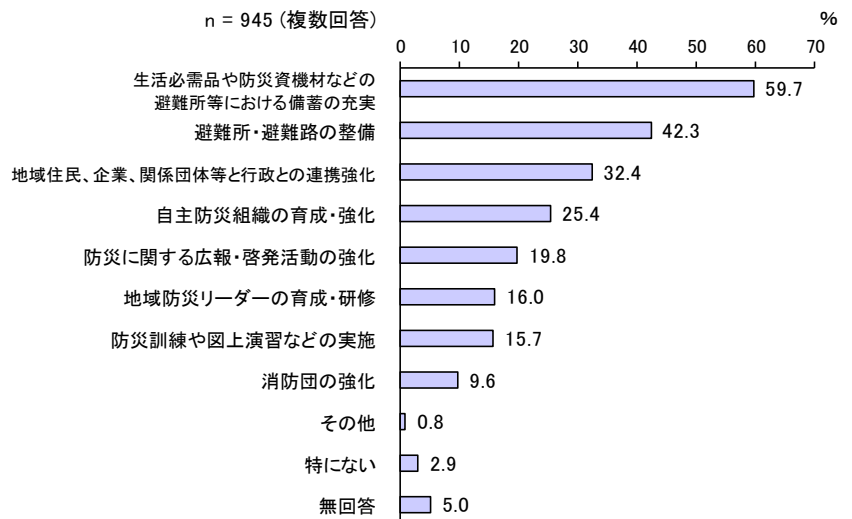
(2) 災害時の情報入手手段として有効なもの

「携帯電話・スマートフォンの緊急速報メール」が56.9%で最も高く、次いで「テレビ」(56.3%)、「ラジオ」(52.3%)と続いている。



(3) 地域の防災力向上のため力を入れるべきもの

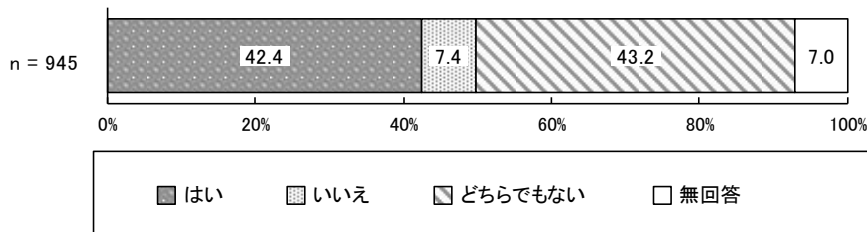
「生活必需品や防災資機材などの避難所等における備蓄の充実」が59.7%で最も高く、次いで「避難所・避難路の整備」(42.3%)、「地域住民、企業、関係団体等と行政との連携強化」(32.4%)と続いている。



5 区民サービスについて

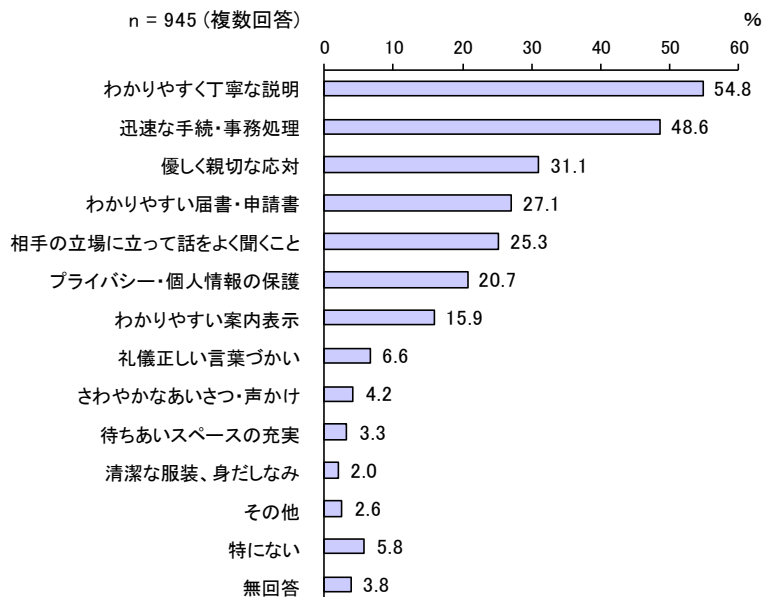
(1) 幸区役所職員の対応に満足しているか

「はい」が42.4%、「どちらでもない」が43.2%となっている。



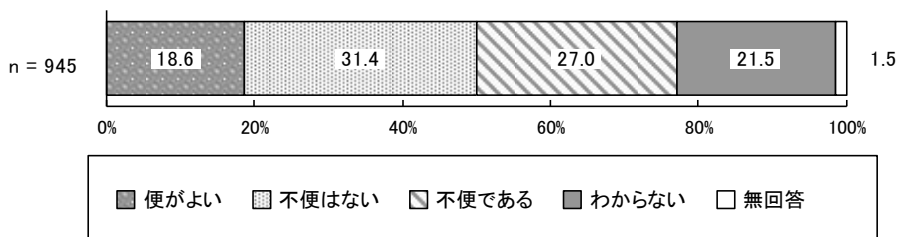
(2) 幸区役所等での窓口サービスで期待するもの

「わかりやすく丁寧な説明」が54.8%で最も高く、次いで「迅速な手続・事務処理」(48.6%)、「優しく親切な応対」(31.1%)と続いている。



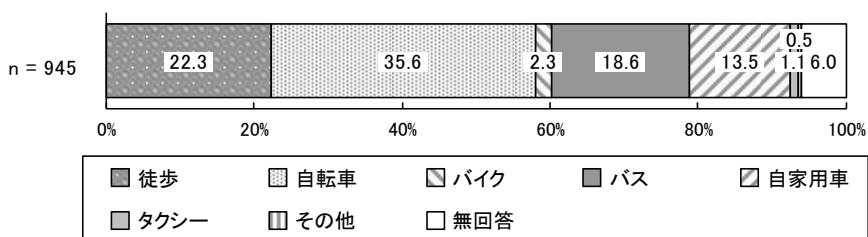
(3) 幸区役所への交通利便性

「便がよい」(18.6%)と「不便はない」(31.4%)を合わせると、50.0%が不便を感じていない。一方、「不便である」は27.0%となっている。



(4) 幸区役所への交通手段

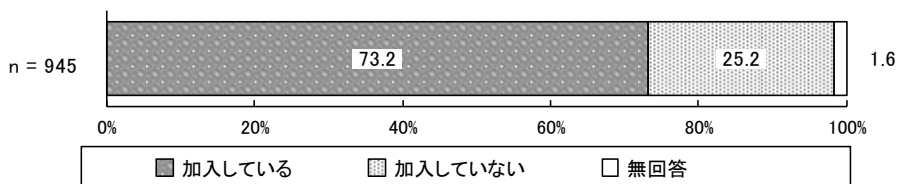
「自転車」が35.6%で最も高く、次いで「徒歩」(22.3%)、「バス」(18.6%)と続いている。



6 地域コミュニティについて

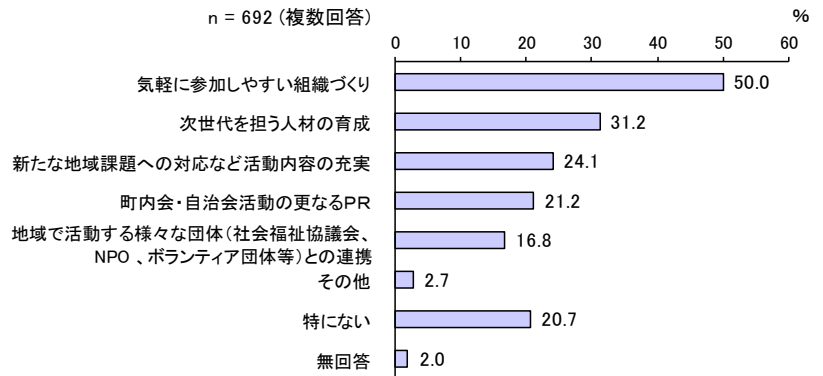
(1) 町内会・自治会への加入状況

「加入している」が73.2%となっている。



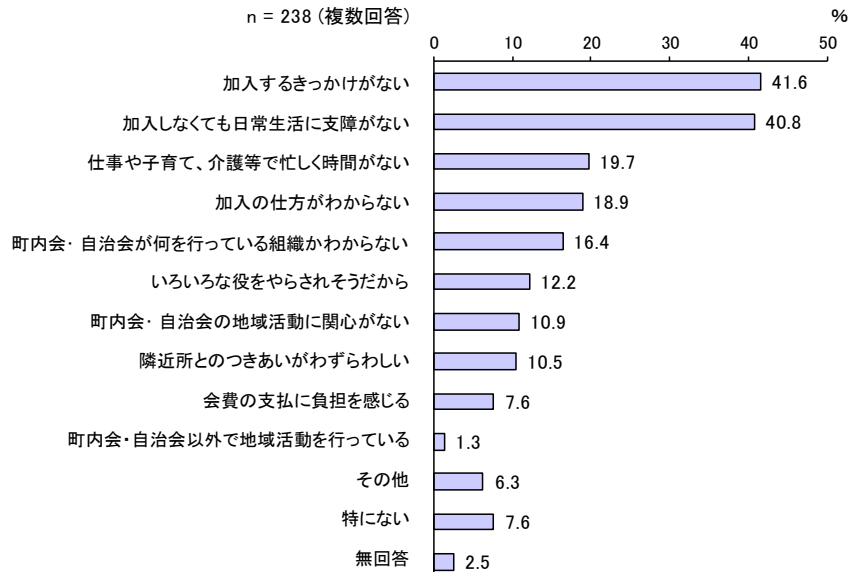
(2) 町内会・自治会活動に期待すること

「加入している」人に期待することをきいたところ、「気軽に参加しやすい組織づくり」が50.0%で最も高く、次いで「次世代を担う人材の育成」(31.2%)、「新たな地域課題への対応など活動内容の充実」(24.1%)と続いている。



(3) 町内会・自治会に加入していない理由

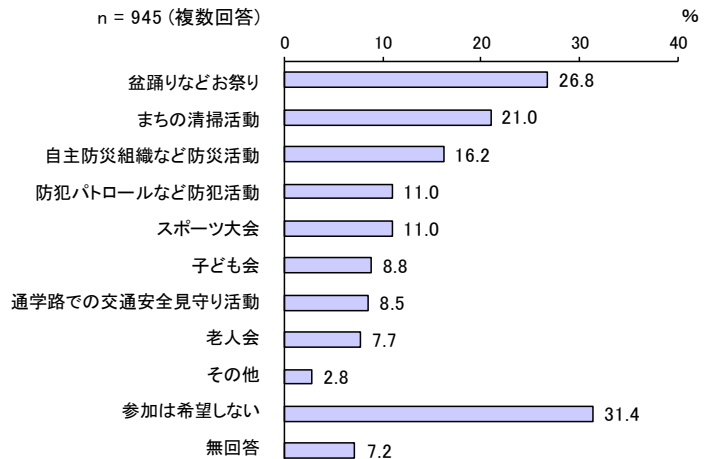
「加入していない」人に理由をきいたところ、「加入するきっかけがない」が41.6%で最も高く、次いで「加入しなくても日常生活に支障がない」(40.8%)、「仕事や子育て、介護等で忙しく時間がない」(19.7%)と続いている。



(4) 町内会・自治会が行っている活動の中で参加してみたいこと

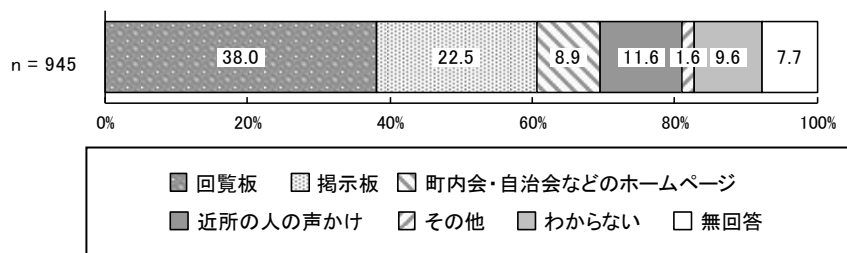
「盆踊りなどお祭り」が26.8%で最も高く、次いで「まちの清掃活動」(21.0%)、「自主防災組織など防災活動」(16.2%)と続いている。

一方、「参加は希望しない」が31.4%となっている。



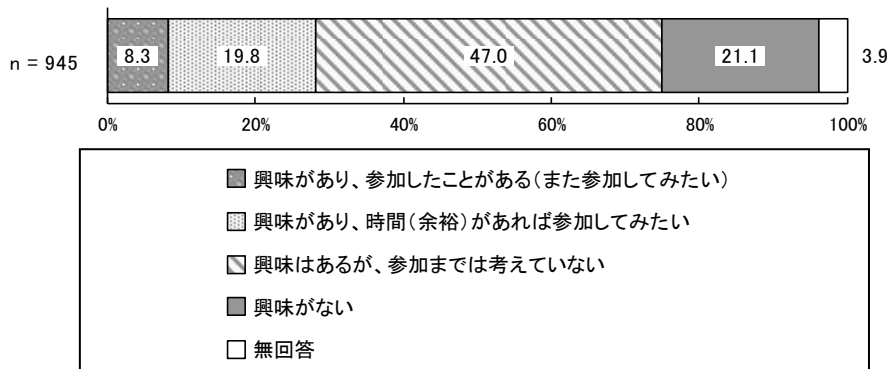
(5) 町内会・自治会の活動を知ってもらうために一番有効な方法

「回覧板」が38.0%で最も高く、次いで「掲示板」(22.5%)、「近所の人の声かけ」(11.6%)と続いている。



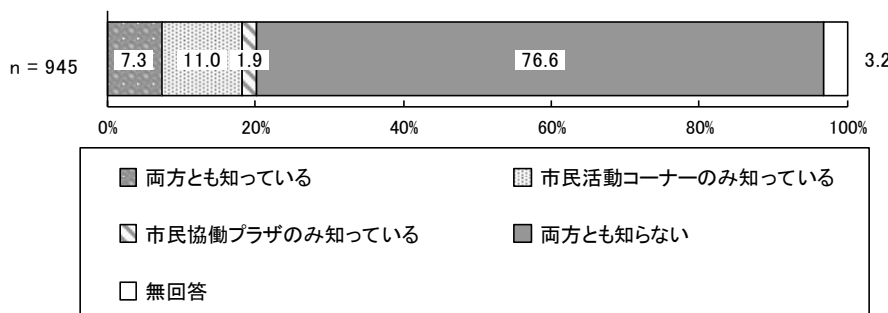
(6) ボランティア等の市民活動について

「興味があり、参加したことがある（また参加してみたい）」(8.3%)と「興味があり、時間（余裕）があれば参加してみたい」（19.8%）を合わせると、28.1%が参加の意欲を持っており、「興味はあるが、参加までは考えていない」（47.0%）まで合わせると、75.1%が興味を持っている。



(7) 市民活動コーナーと市民協働プラザについて

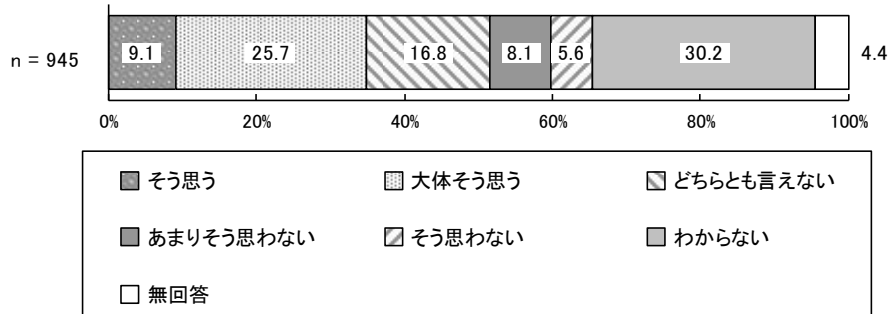
「両方とも知っている」（7.3%）と「市民活動コーナーのみ知っている」（11.0%）、「市民協働プラザのみ知っている」（1.9%）を合わせて、認知度は20.2%となっている。



7 子育て支援について

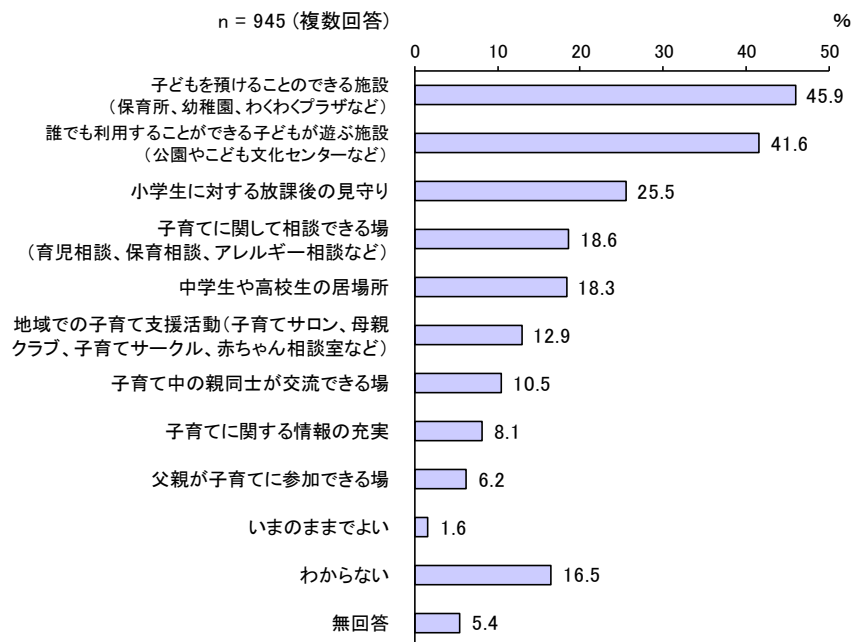
(1) 幸区は出産・子育てがしやすいか

「そう思う」（9.1%）と「大体そう思う」（25.7%）を合わせると、34.8%が出産・子育てがしやすいまちだと思っている。



(2) 子ども・子育てにとって充実したほうがよいもの

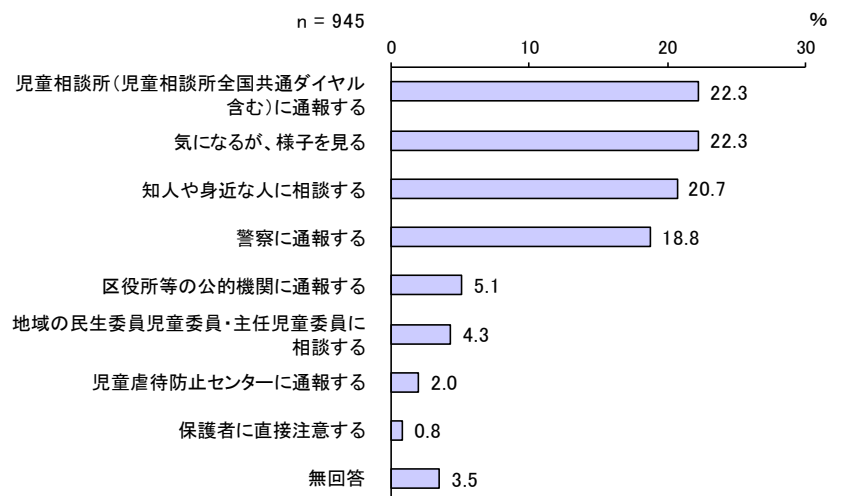
「子どもを預けることのできる施設（保育所、幼稚園、わくわくプラザなど）」が45.9%で最も高く、次いで「誰でも利用することができる子どもが遊ぶ施設（公園やこども文化センターなど）」(41.6%)、「小学生に対する放課後の見守り」(25.5%)と続いている。



8 児童虐待について

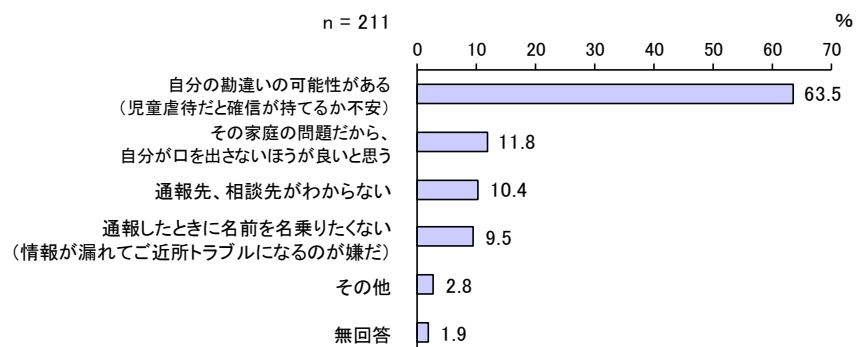
(1) 児童虐待と思われる家庭を知ったときの対応

「児童相談所（児童相談所全国共通ダイヤル含む）に通報する」、「気になるが、様子を見る」が22.3%で最も高く、次いで、「知人や身近な人に相談する」(20.7%)、「警察に通報する」(18.8%)と続いている。



(2) 児童虐待への消極的対応の理由

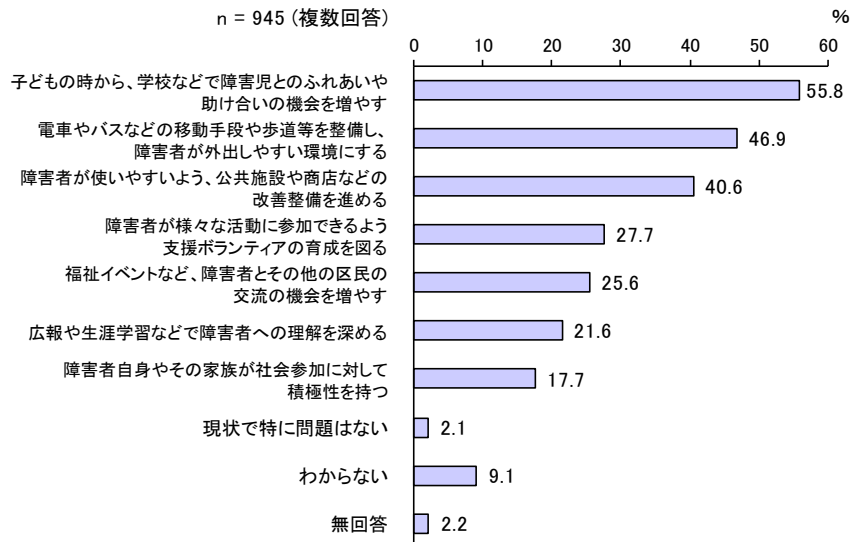
上記(1)で「気になるが、様子を見る」を選んだ人に理由を聞いたところ、「自分の勘違いの可能性がある(児童虐待だと確信が持てるか不安)」が63.5%で最も高く、次いで「その家庭の問題だから、自分が口を出さないほうが良いと思う」(11.8%)、「通報先、相談先がわからない」(10.4%)と続いている。



9 障害者支援について

(1) 障害者の積極的な地域・社会参加に大切だと思うもの

「子どもの時から、学校などで障害児とのふれあいや助け合いの機会を増やす」が55.8%で最も高く、次いで「電車やバスなどの移動手段や歩道等を整備し、障害者が外出しやすい環境にする」(46.9%)、「障害者が使いやすいよう、公共施設や商店などの改善整備を進める」(40.6%)と続いている。

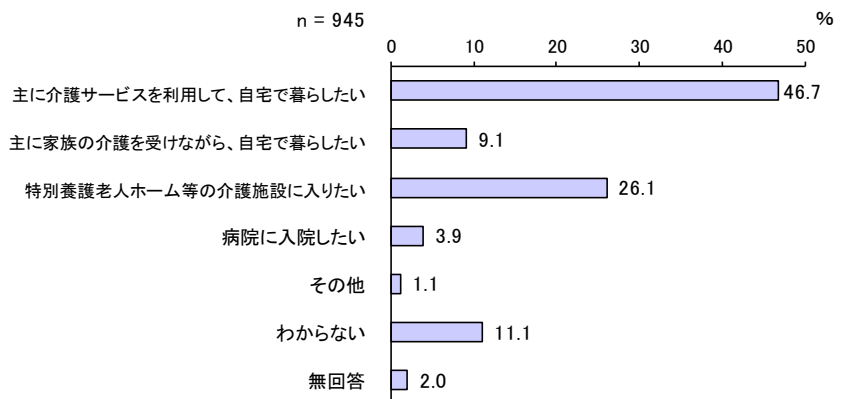


10 高齢者支援について

(1) 介護が必要になった場合の生活

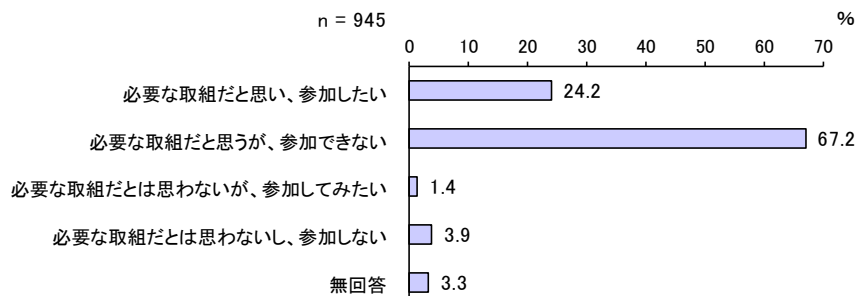
「主に介護サービスを利用して、自宅で暮らしたい」が46.7%で最も高く、次いで「特別養護老人ホーム等の介護施設に入りたい」(26.1%)、「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」(9.1%)と続いている。

一方、「わからない」は11.1%となっている。



(2) ふれすこサポーター養成講座、認知症サポーター養成講座について

「必要な取組だと思い、参加したい」(24.2%)と「必要な取組だと思うが、参加できない」(67.2%)を合わせると、91.4%が必要な取組と思っている。また、「必要な取組だと思い、参加したい」(24.2%)と「必要な取組だとは思わないが、参加してみたい」(1.4%)を合わせると、25.6%が参加してみたいと思っている。

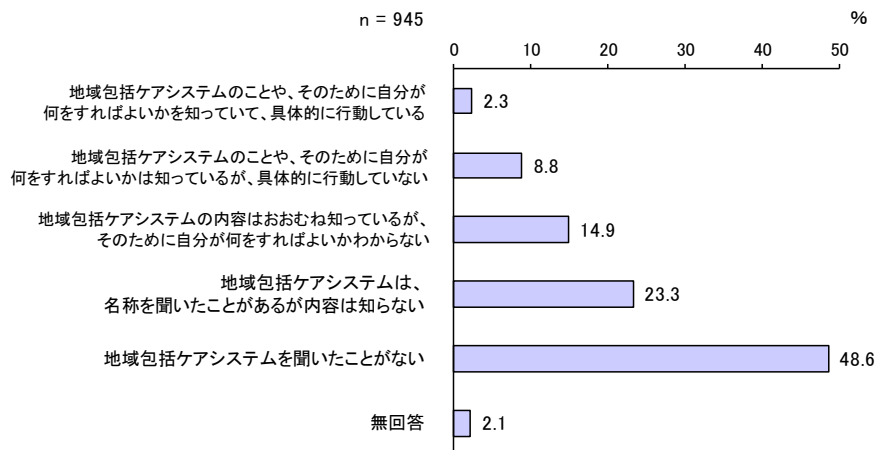


11 地域包括ケアシステムについて

(1) 地域包括ケアシステムの認知度や理解度について

「知っている、具体的に行動している」(2.3%)と「知っているが、具体的に行動していない」(8.8%)、「おおむね知っているが、そのために自分が何をすればよいか分からない」(14.9%)、「名称を聞いたことがあるが内容は知らない」(23.3%)を合わせると、認知度は49.3%となっている。

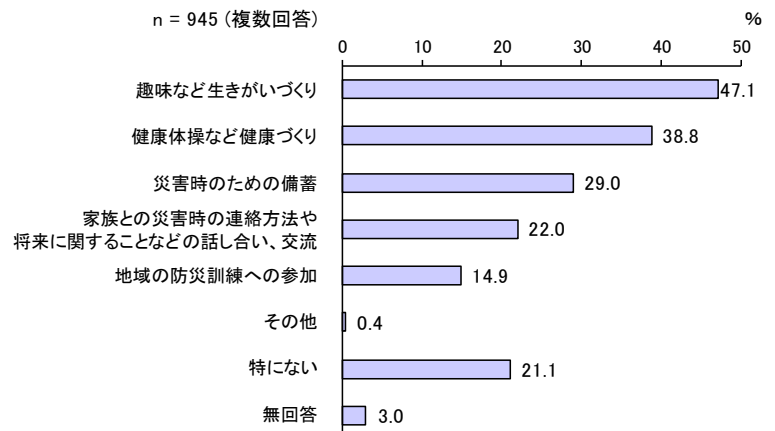
また、「知っている、具体的に行動している」(2.3%)と「知っているが、具体的に行動していない」(8.8%)を合わせると、理解度は11.1%となっている。



(2) 自助・互助について行動していること、行ってみたいこと

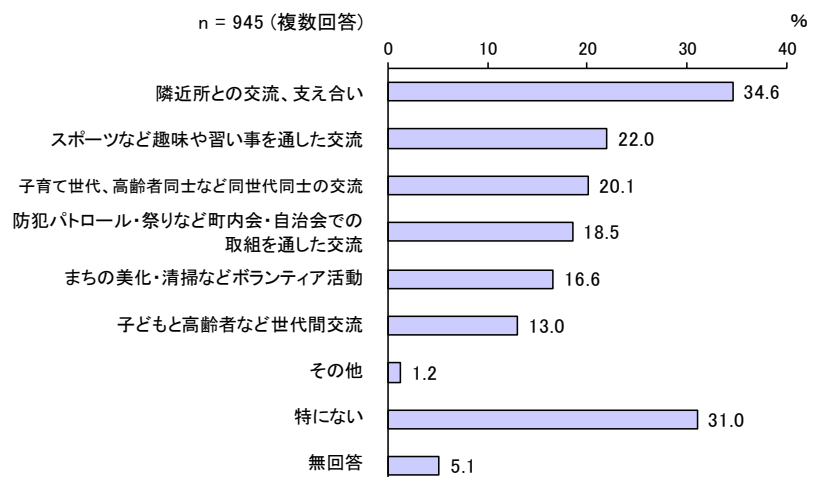
①自助

「趣味など生きがいづくり」が47.1%で最も高く、次いで「健康体操など健康づくり」(38.8%)、「災害時のための備蓄」(29.0%)と続いている。



②互助

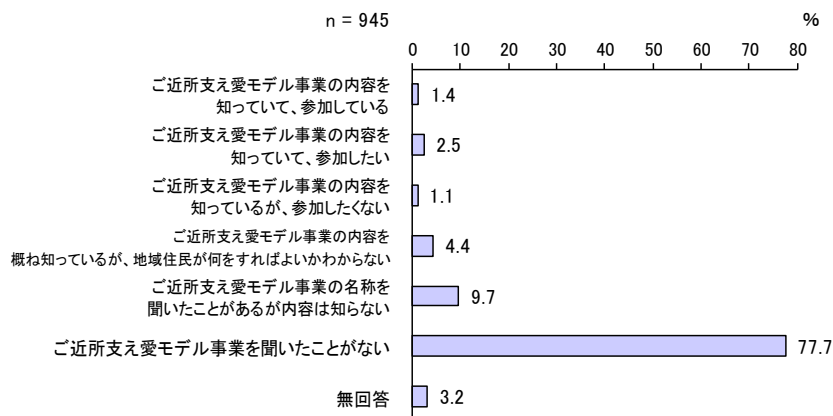
「隣近所との交流、支え合い」が34.6%で最も高く、次いで「スポーツなど趣味や習い事を通じた交流」(22.0%)、「子育て世代、高齢者同士など同世代同士の交流」(20.1%)と続いている。



(3) ご近所支え愛モデル事業の認知度や理解度について

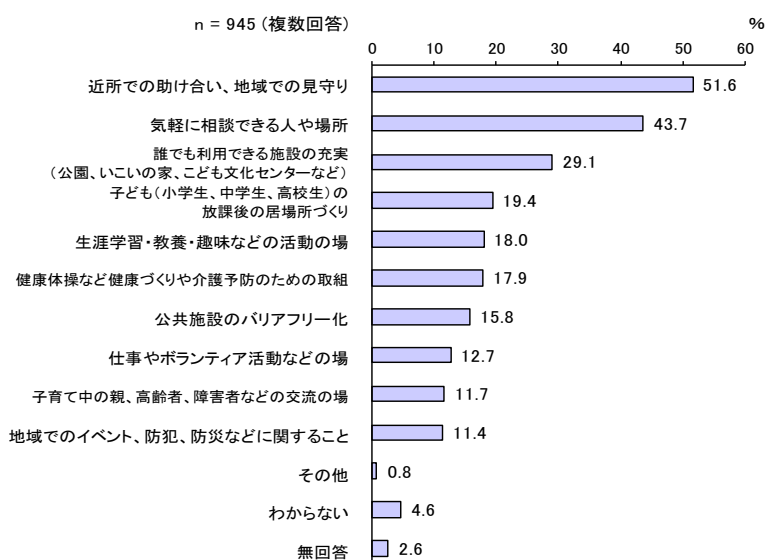
「知っていて、参加している」(1.4%)と「知っていて、参加したい」(2.5%)、「知っているが、参加したくない」(1.1%)、「概ね知っているが、地域住民が何をすればよいかわからない」(4.4%)、「名称を聞いたことがあるが内容は知らない」(9.7%)を合わせると、認知度は19.1%となっている。

また、「知っていて、参加している」(1.4%)と「知っていて、参加したい」(2.5%)、「知っているが、参加したくない」(1.1%)を合わせると、理解度は5.0%となっている。



(4) 誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために必要なこと

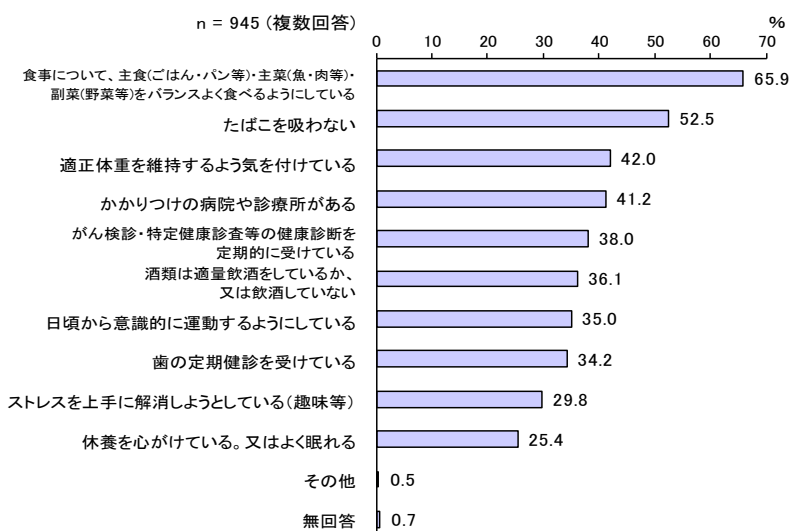
「近所での助け合い、地域での見守り」が51.6%で最も高く、次いで「気軽に相談できる人や場所」(43.7%)、「誰でも利用できる施設の充実(公園、いきいの家、こども文化センターなど)」(29.1%)と続いている。



12 健康づくりについて

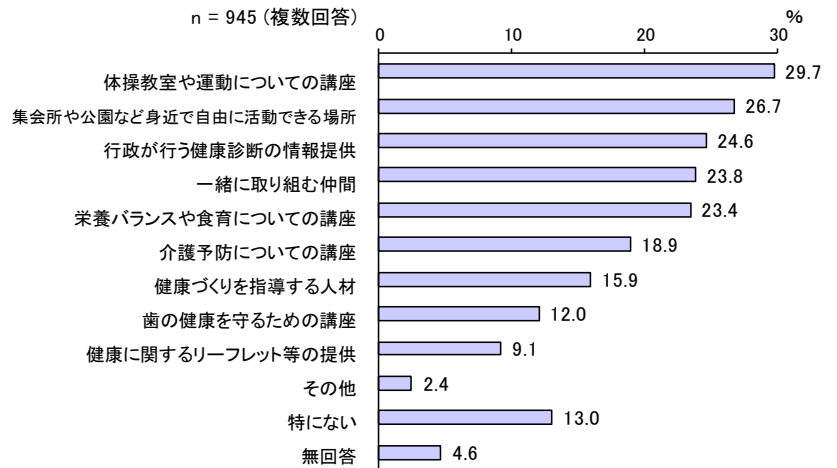
(1) 健康管理について行っていること

「食事について、主食(ごはん・パン等)・主菜(魚・肉等)・副菜(野菜等)をバランスよく食べるようにしている」が65.9%で最も高く、次いで「たばこを吸わない」(52.5%)、「適正体重を維持するよう気を付けている」(42.0%)と続いている。



(2) 健康づくりの取組に関してより充実したほうがよいと思うもの

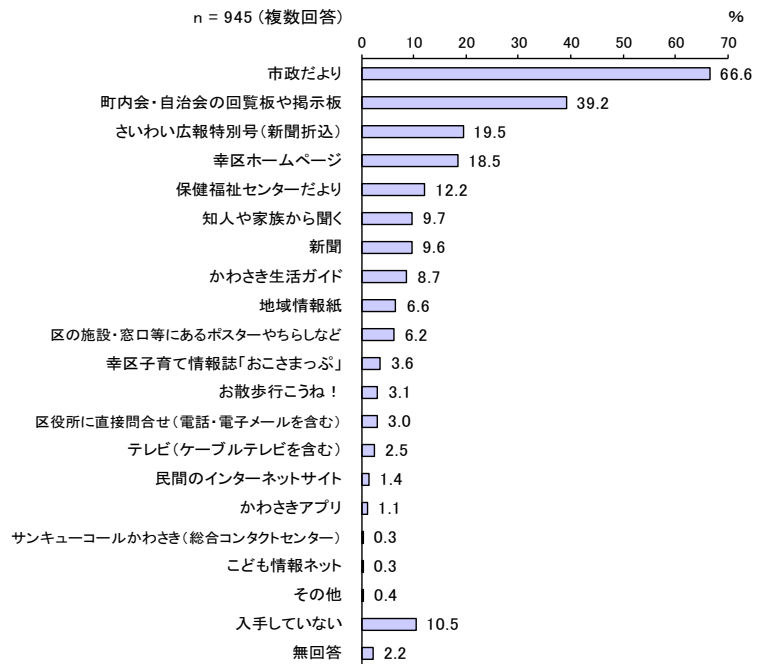
「体操教室や運動についての講座」が29.7%で最も高く、次いで「集会所や公園など身近で自由に活動できる場所」(26.7%)、「行政が行う健康診断の情報提供」(24.6%)と続いている。



13 行政の情報について

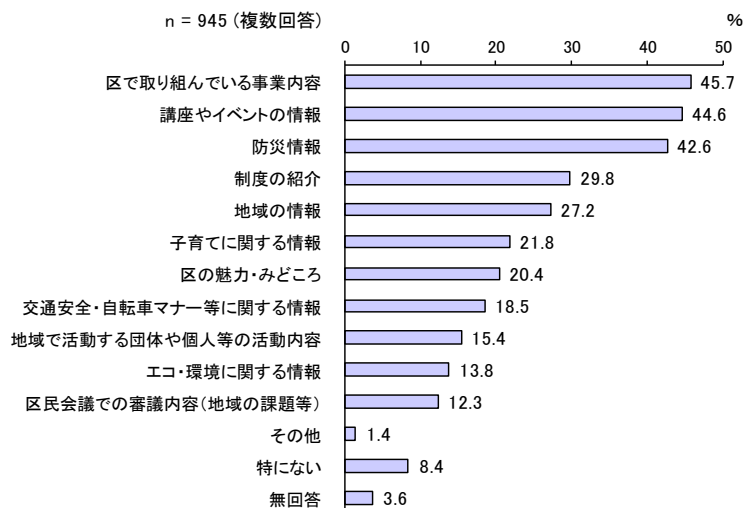
(1) 幸区役所などが提供する行政情報の入手経路

「市政だより」が66.6%で最も高く、次いで「町内会・自治会の回覧板や掲示板」(39.2%)、「さいわい広報特別号(新聞折込)」(19.5%)と続いている。



(2) 幸区役所が発行する市政だより幸区版等で掲載してほしい記事

「区で取り組んでいる事業内容」が45.7%で最も高く、次いで「講座やイベントの情報」(44.6%)、「防災情報」(42.6%)と続いている。





平成 28 年度 幸区区民アンケート調査 <概要版>

平成 28 年 12 月

発 行 幸区役所 まちづくり推進部企画課

〒212-8570 川崎市幸区戸手本町 1-11-1

TEL 044-556-6612(直通)

FAX 044-555-3130

メールアドレス 63kikaku@city.kawasaki.jp